

1 現状・課題

- ◆ 全校で5学級までの小規模中学校では、教員定数が教科数（9教科10科目）よりも少ないことから、特に美術、技術・家庭において、免許外指導を行わざるをえない状況がある。
（免許教科外の教科担任許可者数：美術35人、技術54人、家庭63人）
- ◆ 教育センターでは、免許教科外の教科教授担任講習会（1日）を開催し、指導力向上に向けた支援を行っている。また、免許外指導担当者は、近隣校の専門教員の助言をもらいながら、授業に取り組んでいる。
- ◆ 免許外指導は、教員定数の規定とともに、人材確保が困難な状況であり、免許所有者の配置による免許外指導の解消は難しい。そのため、小規模中学校の免許外指導担当教員（157人）に対して、知識・技能等の専門力向上への支援に取り組む必要がある。

2 取組の方向性

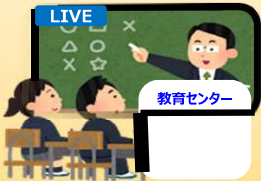
◆ 遠隔教育システムを活用し、免許外指導担当教員を支援

教育センターの遠隔授業に係るノウハウ及び研究成果を最大限活用

- ① 対象科目：免許外の多い「美術」「技術・家庭」で実施
- ② 教育センターと研究指定地域間で実証事業を行い、研究成果を全域に展開
- ③ 研究成果にもとづき、地域の学校間で相互支援
6地域（安芸、香美・香南、嶺北、高吾、高幡、幡多）



3 取組の展開方法



I 研究指定地域での実証事業

- ・研究指定地域を選定
- ・嶺北地域の2中学校と幡多地域の離島の1中学校を対象に、教育センターから遠隔で授業に関わり、免許外指導担当教員を支援
→ 問題点の洗い出しや解決策の検討
他地域への展開を検討

II 実証事業及び地域内相互支援

- ・公募による指定地域の数校を対象に、教育センターから遠隔で授業に関わり、免許外指導担当教員を支援
- ・R4指定地域内において、学校間配信により、相互支援
→ 学校間配信における問題点の洗い出しや解決策の検討

III 県内全域に展開

- ・公募による新規指定地域の数校を対象に、教育センターから遠隔で授業に関わり、免許外指導担当教員を支援
- ・嶺北地域等、R5年度指定地域において、地域学校間連携による相互支援
→ 以降、地域を拡大し、県内全域で展開

令和4・5年度 実証事業

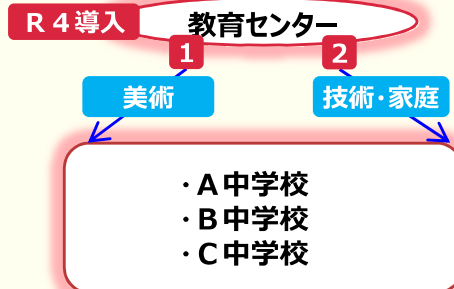
◆ 嶺北地域2校と幡多地域の離島1校の免許外指導担当教員の授業（美術、技術・家庭）に、教育センターから遠隔で支援

- ・教育センターに、小規模中学校支援のための遠隔教育システムを配置したスタジオを**新たに整備**
- ・美術、技術・家庭の教員免許取得者を配置
- ・配信授業を録画し、オンデマンド研修教材として、免許教科外の教科教授担任講習会に活用

研究内容

- ① 教育センターからの遠隔教育による支援が可能な分野・単元の検証
- ② 地域学校間連携による相互支援に向けて、問題点の洗い出しや解決策の検討

① 教育センター支援型



② 相互支援型(地域学校間連携)

